

授業の合言葉・6原則

同じ学区の小学校にも同様の内容で共有し、授業における決まりを教員間で認識。

北本東中学校区 目指す生徒像 ～自ら気づき、学び、健やかに成長する児童生徒～

授業の合言葉

導入

ひ

日頃の疑問をいかす

～適切な課題設定・めあてへの見通し～

展開

が

学習形態を工夫する

～小グループ・ICTの活用～

まとめ

し

終末から次の学習へ

～効果的な振り返り～

北本東中学校学力向上 ～授業6原則の工夫～

①見通し

①
5分

学習活動の見通し：「何を学習するのか」「何ができればよいか」明確にする
～本時のゴールは何か？ どのような既習事項を活用できるか？～

②基礎基本の徹底

既習事項の確認：学習した基礎基本の定着を図る
～小テストなどの活用～

③少人数グループの活用

②
⑤
3
5分
④
4
0分

的確な役割分担：役割分担を明確にしたグループ活動の推進（話し合い活動の推進）
～2・3・4人など活動の目的に沿ったグループ編成～

④発問の工夫

切り返しの発問：「なぜ？」「どうして？」生徒の思考がアクティブな状態へ
～めあてに迫る 話し合いの工夫～

⑤意見を発表する

自身の考えの明確化：仲間の意見から、自分の意見を明確化し表現する
～アウトプットこそ最大のインプット～

⑥振り返り

⑥
5分
1
0分

効果的な振り返り：ここまでの学習が、次の学習へと結びつく振り返りの実施
～メタ認知を意識する～

学習のゴール

⑦評価

～生徒～

自ら更なる課題に気づき
主体的に学習に取り組む

～教師～

生徒の姿から実態を把握し
授業改善を図る

授業におけるPDCAサイクル

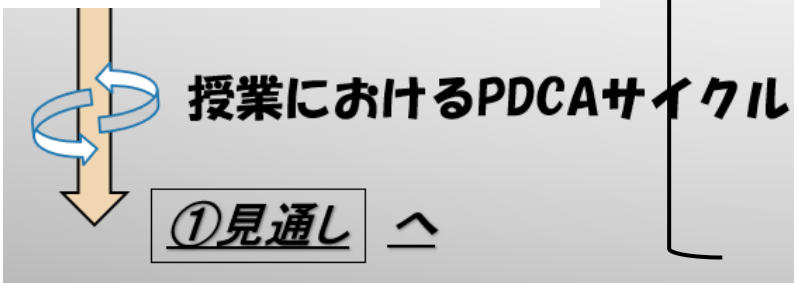
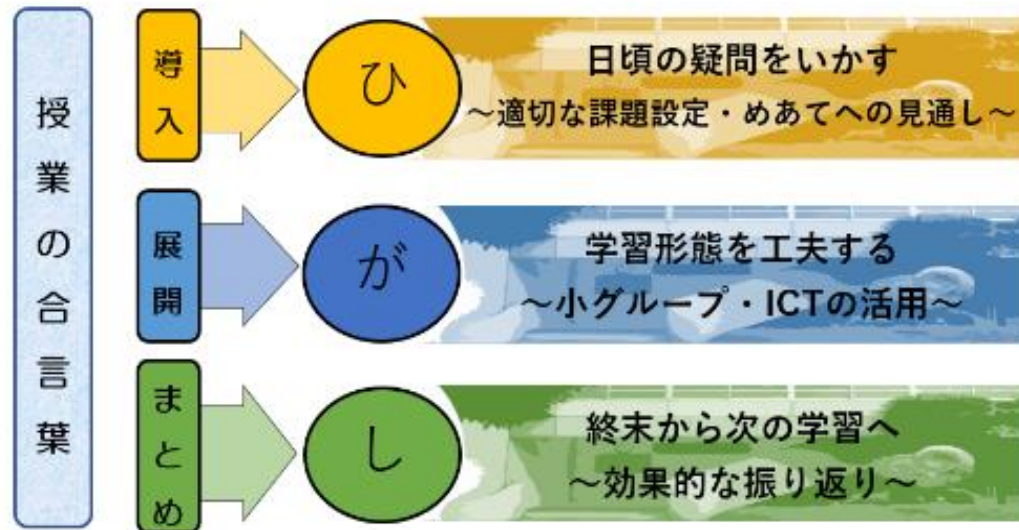
学びから逃げない生徒へ

①見通し

へ

学校区の小学校における取組

北本東中学校区 目指す生徒像 ～自ら気づき、学び、健やかに成長する児童生徒～



学習の

⑦

北本中丸東小学校学力向上～授業6原則の工夫～

《表現の活動》

①めあて 15分	「何を学習するのか」「何ができればよいか」を明確にさせる。 本時のゴールは〇〇！	・つぶやく ・発言する
②既習事項の確認・比較、見通し	「今までに習ったことでどんな事が使えるか。」 「今までと何が違うのか。」を確認する。	・発言する・相談する ・決める
③自力解決 30分	「なぜ?」「どうして?」「あなたはどうか考えたの?」と発問を工夫する。 つまづいている児に対しての手立てを考える。	・書く・相談する ・つぶやく
④グループでの話し合い 40分	少人数での話し合いにより、思いを伝えやすい雰囲気にする。 自分の意見に自信がもてるようにさせる。	・説明する・教える ・質問する
⑤全体での意見交流	考えを比べて共通点相違点を見つけ、それぞれの良さに気付かせる。 他の人の考えを聞き、自分の考えを深め、広げさせる。	・選ぶ・まとめる ・伝え合う・聞く
⑥振り返り 5分	めあてにあった振り返りをさせる。わかさを活用させる。 次時へ生かす。	・書く・発言する ・選ぶ

北本東小学校学力向上～授業6原則の工夫～

《聞く・読む・書く活動》

①学習課題・めあての設定	児童主体の学習課題・めあての設定 「どうして?どのように?なぜ?」のHow,Why型への変換	聞くことで課題をつかむ
②既習事項の確認・比較、見通し	「今までに習ったことでどんな事が使えるか。」 「今までと何が違うのか。」課題解決にむけ、見通しを持たせる。	聞くことで見通しを持つ
③学習形態の工夫	自力解決、少人数グループ、ICTの活用（多様な他者と協働）	資料を読む・自分の考えを書く
④発問の工夫	切り返しの発問の工夫：「なぜ?」「どうして?」 課題にせまる発問	他者の考えを聞く
⑤意見を発表する	表現することで、自身の考えの明確化させる 他者の考えを聞き、自分の考えを深め、広げさせる。	他者の考えを聞く
⑥振り返り	課題・めあてに沿った振り返り 目標達成の自己評価・感情の自己認知	振り返りを書く

STEP1

STEP2

STEP3

学力向上の取組

授業6原則をベースとした各教科の取組みについて

数学

北本東中学校学力向上 ～授業6原則の工夫～

教科【 数学 】

全教科で、授業6原則に沿ったものを作成

段階	内容
①見通し	学習活動の見通し：「何を学習するのか」「何ができればよいか」明確にする ～本時のゴールは何か？ どのような既習事項を活用できるか？～
	教科で取組む内容 ⇒本時の目標を掲示する。
②基礎基本の徹底	既習事項の確認：学習した基礎基本の定着を図る ～小テストなどの活用～
	教科で取組む内容 ⇒定期的に小テストや復習を行う。
③少人数グループ	的確な役割分担：役割分担を明確にしたグループ活動の推進（話し合い活動の推進） ～2・3・4人など活動の目的に沿ったグループ編成～
	教科で取組む内容 ⇒「自力解決→グループによる話し合い（教え合い）→個に戻る」活動を入れる。

④発問の工夫	切り返しの発問：「なぜ？」「どうして？」生徒の思考がアクティブな状態へ ～めあてに迫る 話し合いの工夫～（※見方・考え方がはたらく工夫）
	教科で取組む内容 ⇒①日常生活に沿った内容を取り入れる。 ②間違いを紹介し、どこで間違ったかを考えさせる。
⑤意見を発表する	自身の考えの明確化：仲間の意見から、自分の意見を明確化し表現する ～アウトプットこそ最大のインプット～
	教科で取組む内容 ⇒③少人数グループでの内容と合わせて行う。
⑥振り返り	効果的な振り返り：ここまでの学習が、次の学習へと結びつく振り返りの実施 ～メタ認知を意識する～
	教科で取組む内容 ⇒まとめと振り返りシートを活用するとともに、次回の学習とのつながりを紹介する。

教科横断的な取組

理科の授業で学習した消化酵素の内容からプレゼンを作成し、家庭科の先生に発表



探求型学習のすすめ

家庭科の授業で、理科の知識を活用し、それぞれが考えた方法で、サツマイモを焼く

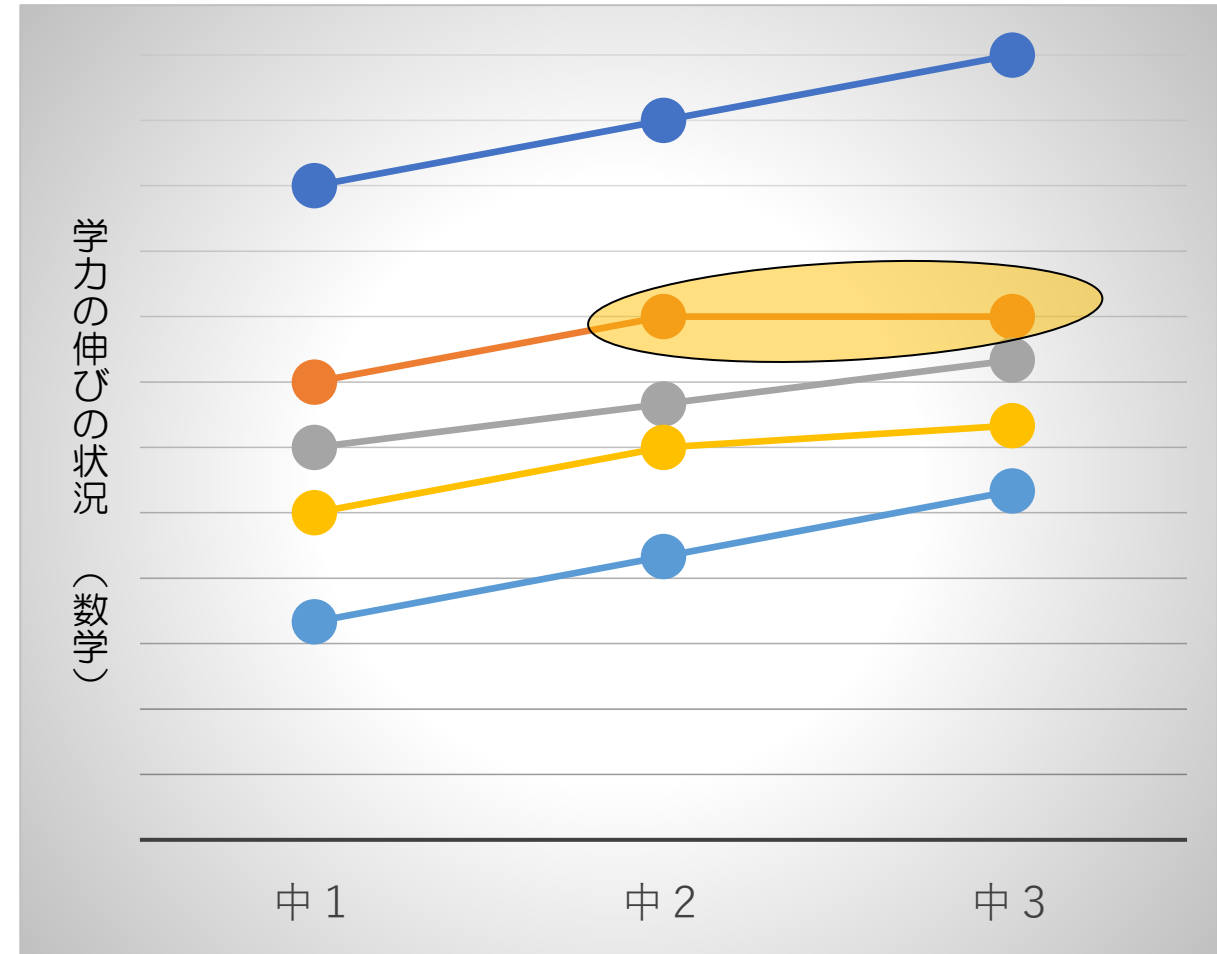
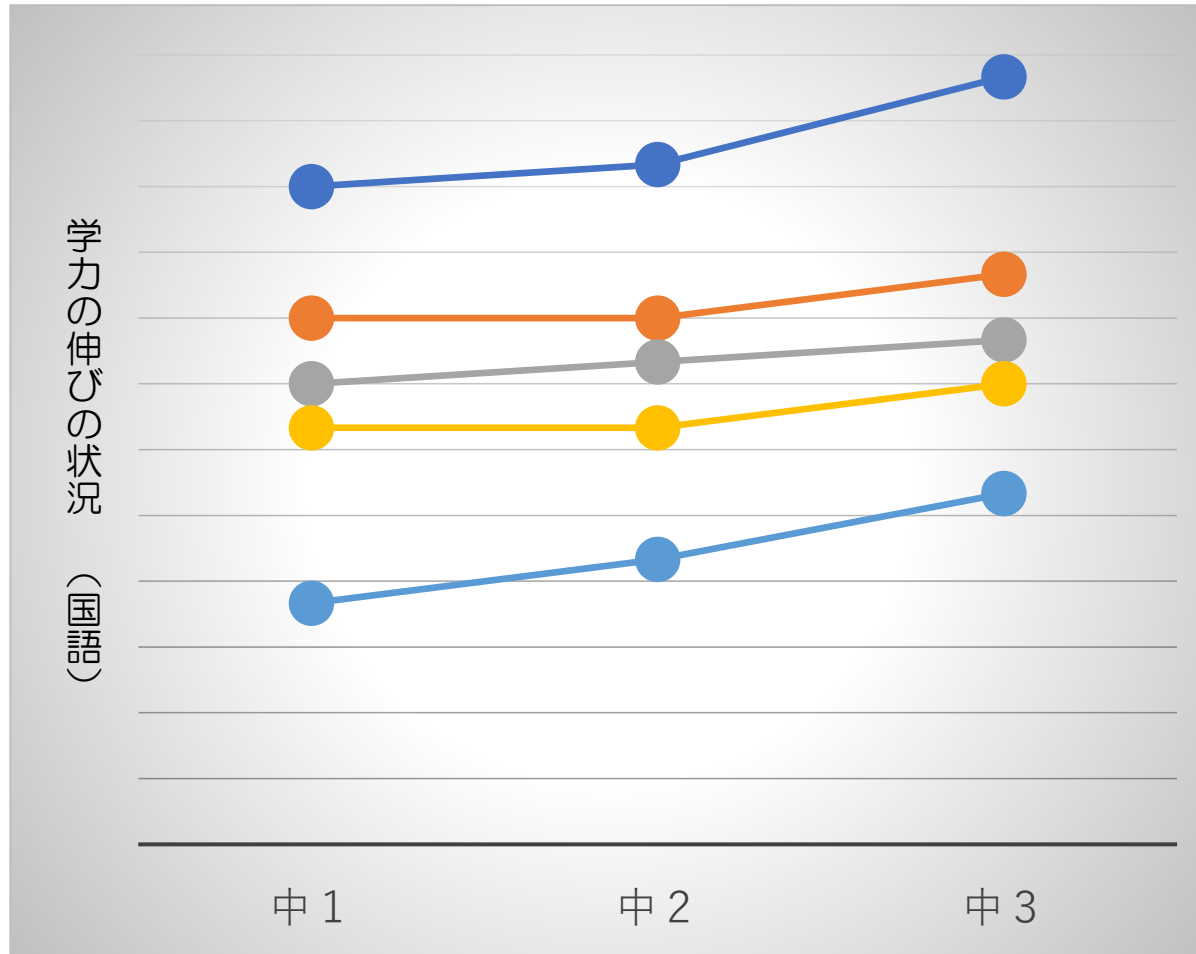


県学力・学習状況調査において 学力を伸ばした先生の授業を公開

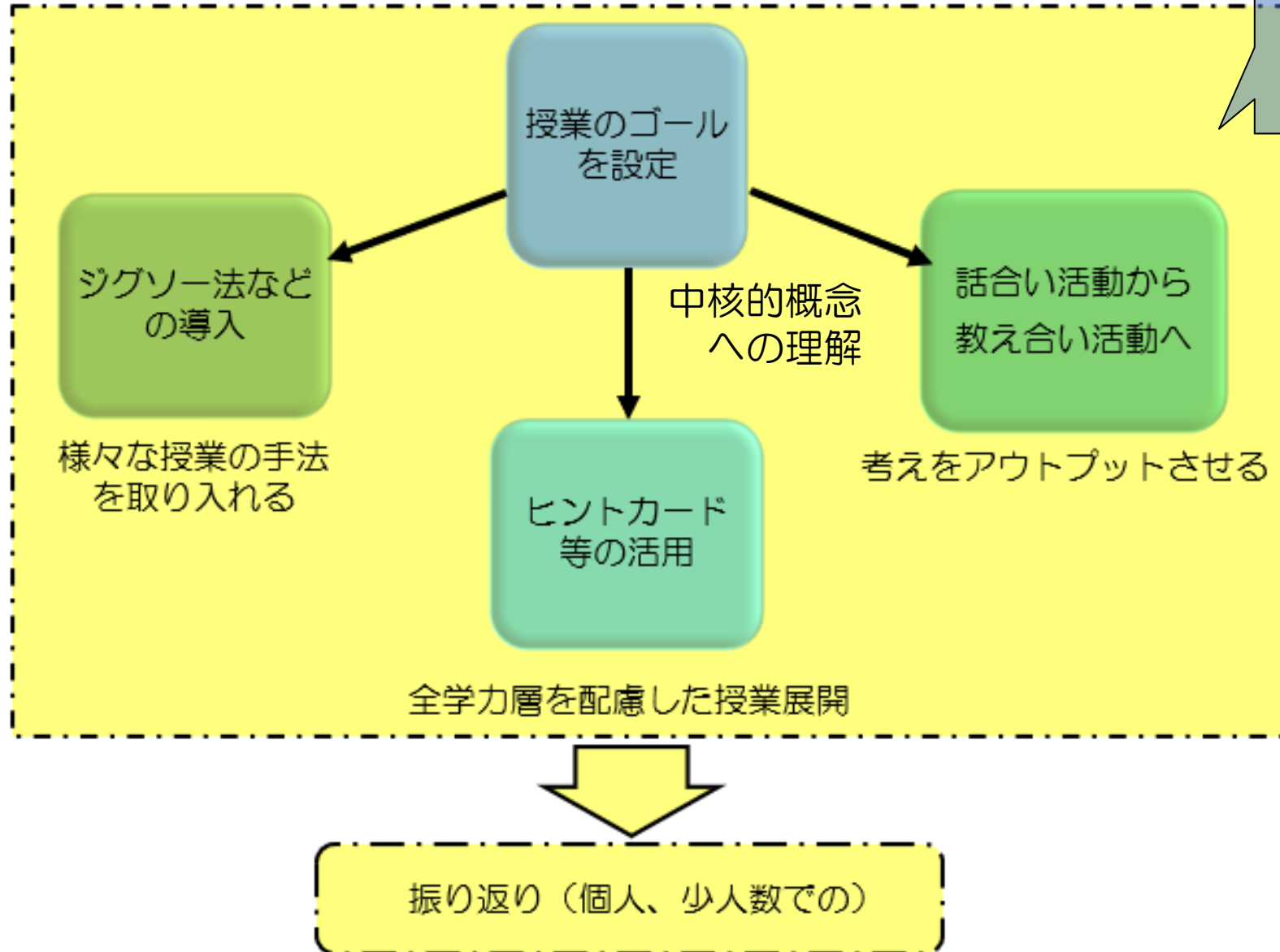


給食時の放送にてALTが
給食の献立を英語へと訳し、放送を行う。
「日常生活を学習の機会へ」

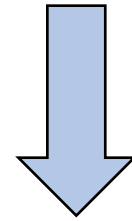
帳票26 R5 1年生 ⇨ R6 2年生 ⇨ R7 3年生 ※ () の数値は県平均



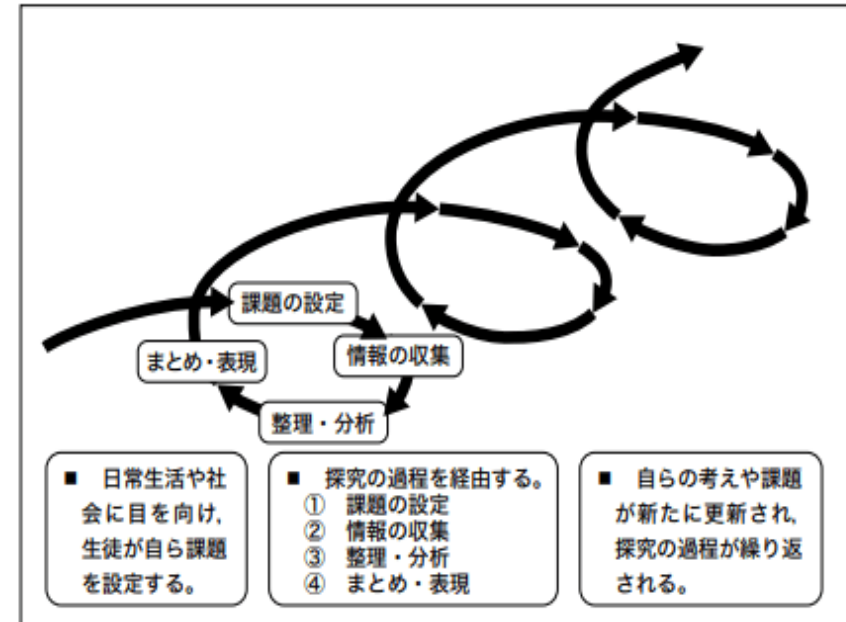
成果・課題



授業6原則を実践して得られた授業構成へのヒント



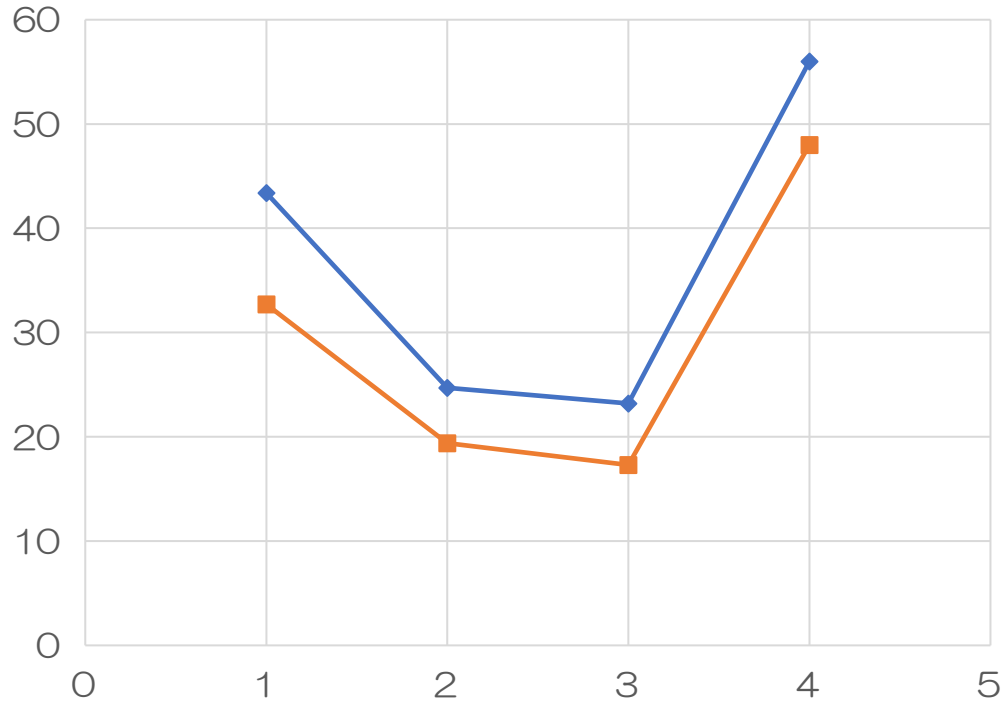
探究における生徒の学習の姿



生徒質問調査の結果より

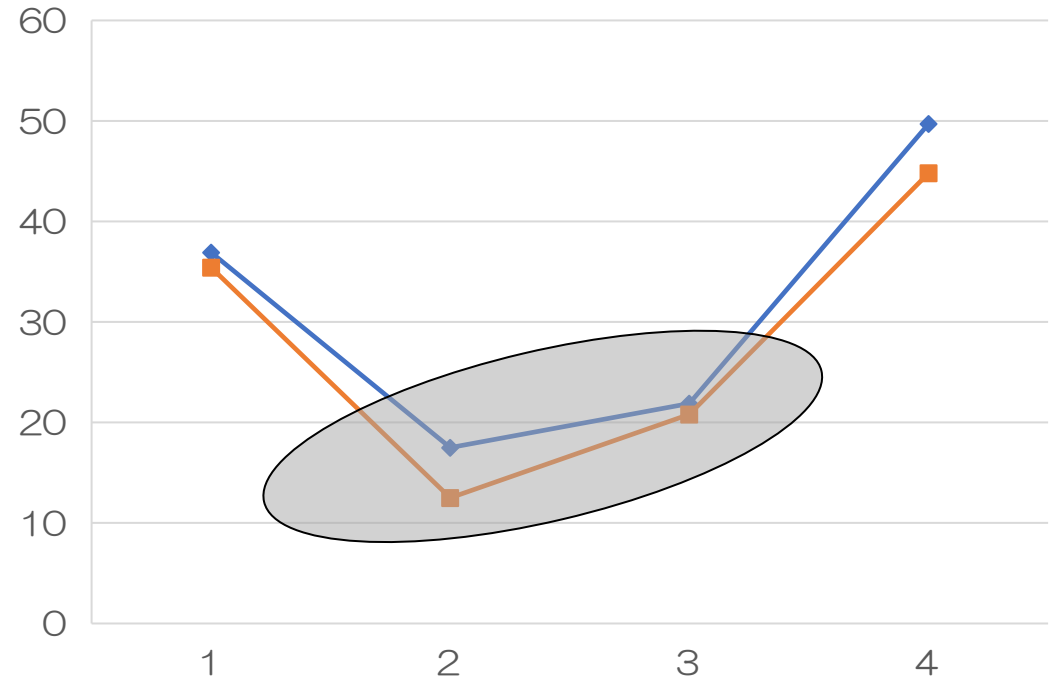
R6 質問調査（1学年）

◆ 埼玉県【よくあてはまる】と回答した数値（%）
■ 東中【よくあてはまる】と回答した数値（%）



R7 質問調査（2学年）

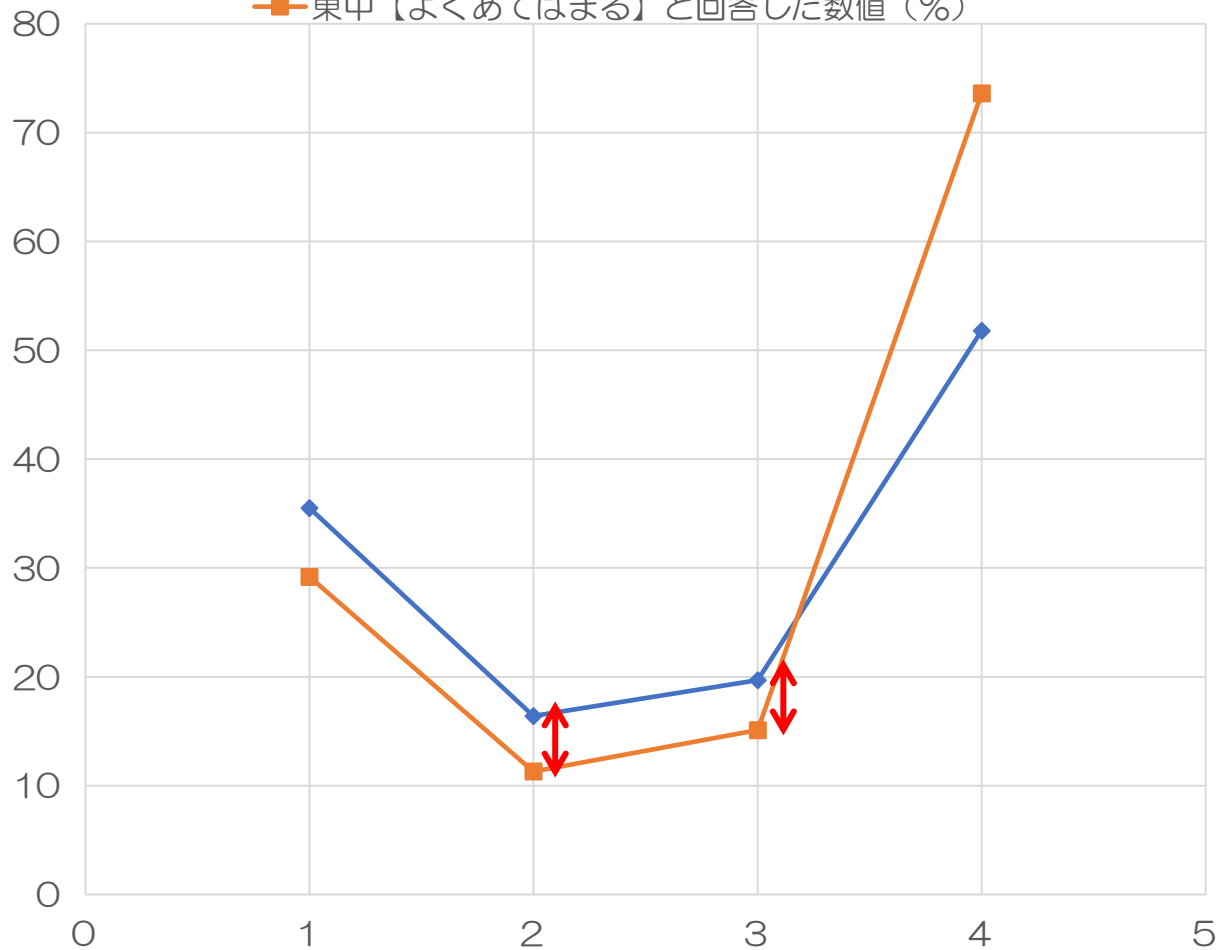
◆ 埼玉県【よくあてはまる】と回答した数値（%）
■ 東中【よくあてはまる】と回答した数値（%）



上記グラフ番号	質問 内容
1	授業で教えてもらった基本的なことを理解できたと思う
2	授業で教えてもらったことは、使いこなせると思う
3	授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う
4	グループやペアで話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと

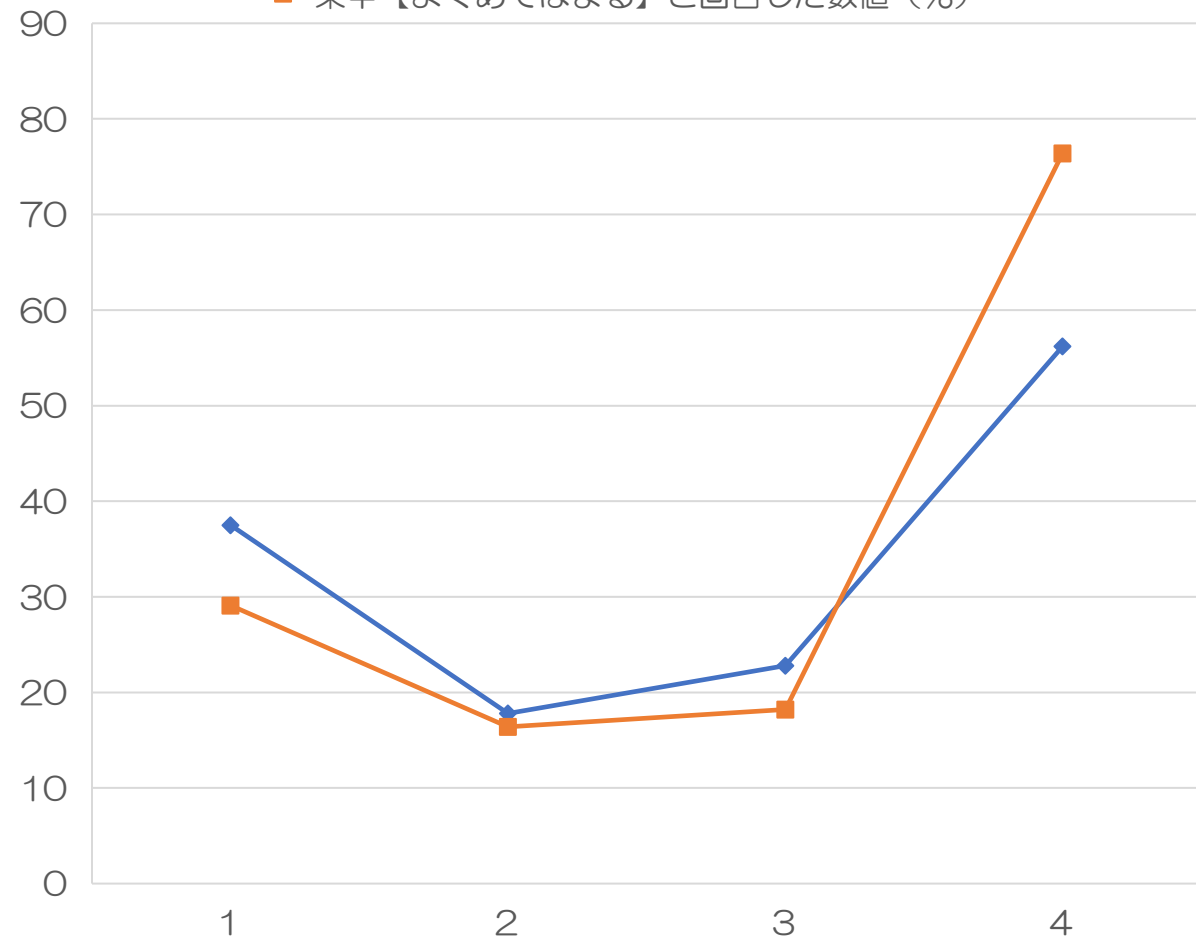
R6 質問調査（2学年）

◆ 埼玉県【よくあてはまる】と回答した数値（%）
 ■ 東中【よくあてはまる】と回答した数値（%）



R7 質問調査（3年生）

◆ 埼玉県【よくあてはまる】と回答した数値（%）
 ■ 東中【よくあてはまる】と回答した数値（%）

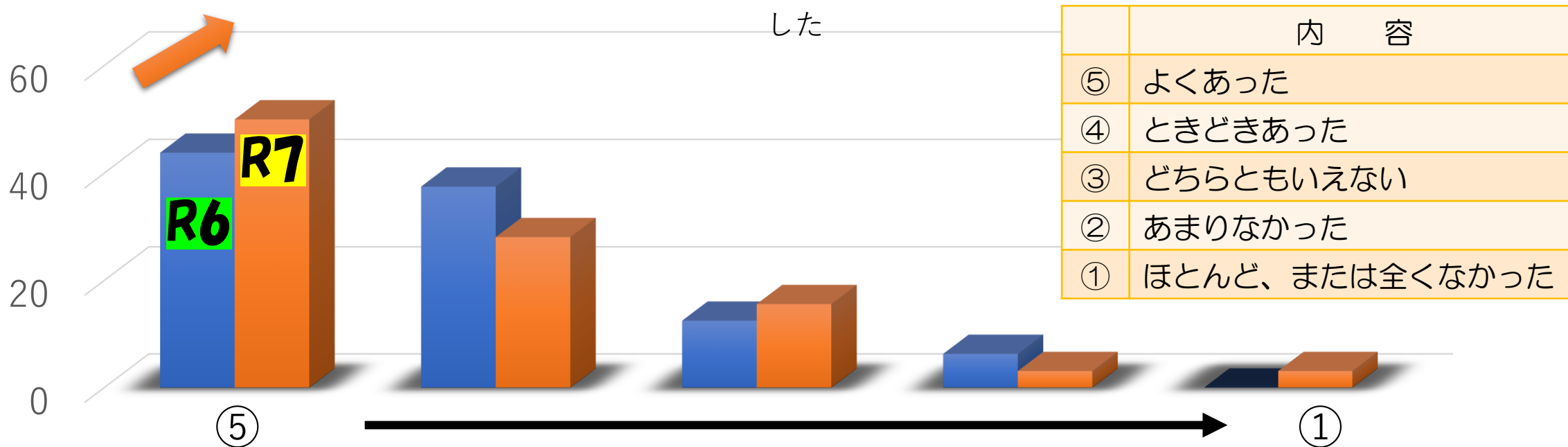


上記グラフ番号	質問 内容
1	授業で教えてもらった基本的なことを理解できたと思う
2	授業で教えてもらったことは、使いこなせると思う
3	授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う
4	グループやペアで話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと

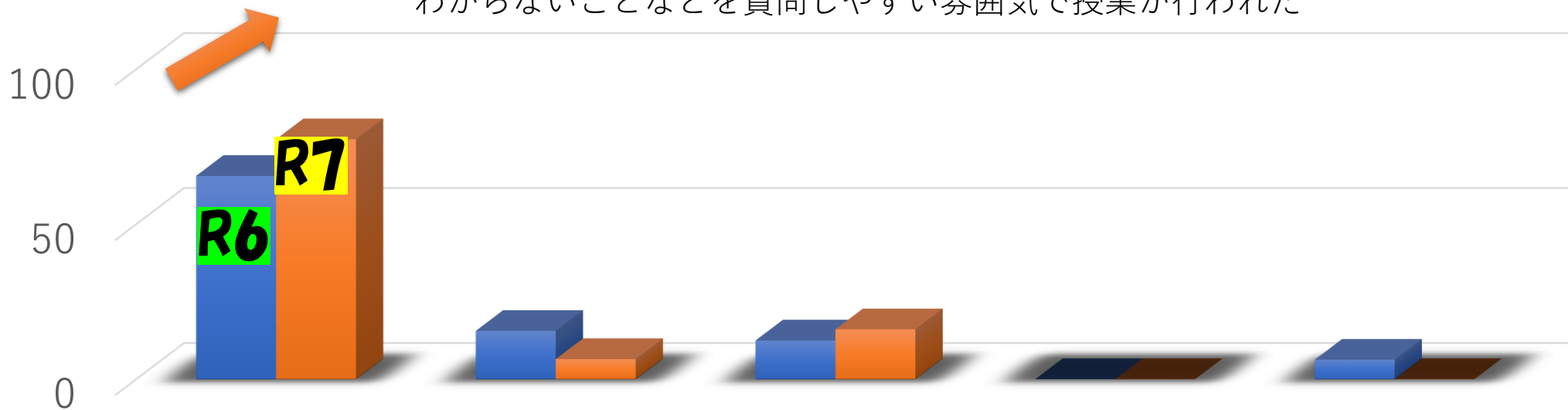
「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査 - 「数学」による成果

授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚

した



わからないことなどを質問しやすい雰囲気で行われた



課題解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、
自分の考えをしっかりと持てるようになった。

